

令和6年7月1日

渋谷区立松濤中学校 学校だより



世界へ松濤中生 Grow(自律) Respect(尊重) Create(創造)

<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/shotoj>

「部活動の地域移行」について

校長 中村 哲也

先日、日本中学校体育連盟（中体連）は、2027年度（令和9年度）以降の全国中学校体育大会（全中大会）において、水泳やハンドボール、スキーなど9競技を実施しないことを発表しました。このことは、テレビ・新聞やネットの記事でも取り上げられていましたね。中学生の全国大会の一部競技を実施しないことが決まったわけですが、どのような背景があるのでしょうか。

平成30年にスポーツ庁が策定した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」には、部活動の意義について次のように書かれています。「学校の運動部活動は、スポーツに興味・関心のある生徒が参加し、教師等の指導の下、学校教育の一環として行われ、国内のスポーツ振興を大きく支えてきました。また、体力や技能の向上を図る目的以外にも、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図ったり、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、生徒の多様な学びの場、そして活躍の場として、教育的意義を有しています。」

しかしながら、今日においては、全国で少子化が深刻化する中、1運動部当たりの人数が減少し、特にチームスポーツなどでは、部員数が足りずチームとして大会に出たり練習試合を行ったりすることができない部が増えています。部員数が減少して、1校における部活動設置数が減少し、やりたい部活が学校

にないこともあります。また、教員の異動に伴って、その種目の競技経験がなく、詳しいルールも知らない教師が顧問を引き受けている場合もあります。従前と同様の運営体制では維持は難しくなっており、学校や地域によっては存続の危機にあります。

このように、「部活動の地域移行」は全国的な学校教育の喫緊の課題となっています。少子化の問題と、もう一つは、「教員の働き方改革（労働環境の改善）」の側面です。部活動の顧問を引き受けた教員は、部活動の指導に従事すると勤務時間を大幅に超える状況となります。冒頭の、全国大会の一部競技取りやめの決定も、大会運営を担う教員の負担軽減が大きな理由となっています。



子供のスポーツ機会を守る

地域の子供は、学校を含めた地域で育てる

- 他にも…
 - 専門的な指導を受けられない
 - いろんなスポーツを体験してみたい
 - 引退後、続けられる場所がない
- 地域で多様な活動を楽しめる
 - 学校を越えた仲間を獲得
 - 多様な世代との豊かな交流
 - 有資格者・専門性のある指導者
 - スポーツに限らない多様な体験
 - 引退後も継続したスポーツ機会

（「スポーツ庁 Web 広報マガジン」より）

公立中学校において、学校部活動の維持が困難となる前に、スポーツ庁では、生徒にとって望ましいスポーツ環境を構築するという

観点に立ち、運動部活動の地域連携並びに地域の運営団体・実施主体による地域スポーツクラブ活動への移行に取り組み、運動部活動が地域、学校、競技種等に応じた多様な形で最適に実施されることを目指しています。



そこで、渋谷区では全国に先駆けて、2021年（令和3年）10月に「渋谷ユナイテッド」を立ち上げ、「新しい部活動の設置」と「外部指導員による学校部活動支援」の2つを中心とした「シブヤ部活動改革プロジェクト」の取組が始まりました。その具体的な第一歩として、令和5年度には区立中学校に設置されている既存部活動の地域移行を推進するために、「部活動の地域移行を推進するためのモデル校」として、代々木中学校と原宿外苑中学校の2校が進められてきました。そして今年、松濤中学校と広尾中学校の2校が、渋谷ユナイテッドによる部活動改革に加わります。7月から本校の全ての運動部（陸上部、テニス部、バドミントン部、男女バスケットボール部、野球部）について、渋谷ユナイテッドのコーチによる指導が始まります。渋谷ユナイテッドの運営スタッフとして、「スーパーバイザー（統括責任者）」、「クラブマネージャー（統括責任者補佐）」が、授業終了後に学校に常駐します。各運動部活動には「ユナイテッドコーチ」が指導に当たります。各競技の経験者が配置されますので、新しいコーチから技術をたくさん吸収していただきます。今後は、校内で渋谷ユナイテッドの関係者が活動する場合には、「渋谷ユナイテッド」の名札を首から掛けていますので、気軽に声をかけてみてください。

なお、すでにHome&Schoolにて通知がされているかと思いますが、7月1日付で「渋谷ユナイテッド」と、「渋谷区スポーツ協会」と、「渋谷区体育協会」が合併し、「一般財団法人渋谷区スポーツ協会」が発足しました。「渋谷ユナイテッド」はこの「一般財団

法人渋谷区スポーツ協会」の中の一部門となります。これにより、渋谷区の部活動改革は渋谷区スポーツ協会に引き継がれ、さらに推進されていきます。

このように、渋谷区では部活動改革が一步一步進んでいます。部活動の指導者を校外の人材に委託していきませんが、部は学校に所属していますので、顧問の教員も継続して配置します。また、進学の際には、部活動の成績や活動内容について、高校側に提出する書類に記載することが可能です。今後は、文科系の部活動においても運動部と同様の地域移行が行われると見込まれます。まだ、全国的に制度が確立していない状況で、試行錯誤しながら進んでいきます。学校部活動の教育的意義を地域部活動に継承・発展しつつ、地域と学校が連携して、子どもたちがスポーツ・文化芸術に親しむ機会のさらなる充実を図っていきます。

ユナイテッドコーチの紹介

バスケットボール部（男子）：いそざき磯崎 ゆいと結人
バスケットボール部（女子）：はまだ濱田 りお凜帆
バドミントン部（男子）：むかえ向江 ゆうき祐貴
バドミントン部（女子）：いがり猪狩 そのこ苑子
陸上部：あべ阿部 おさむ修・ますや枡谷 まさひさ真久
硬式テニス部：あきや秋谷 まこと慎

この他に、「スーパーバイザー（統括責任者）」や「クラブマネージャー（統括責任者補佐）」がスタッフとして来校されます。詳しくは後日お知らせします。

コーチ、スタッフの皆様、どうぞよろしくお願ひします。

クリーンキャンペーン

6月8日(土)に行われた渋谷駅周辺のクリーンキャンペーンに、Shoto HANDs Juniorのメンバーが参加しました。



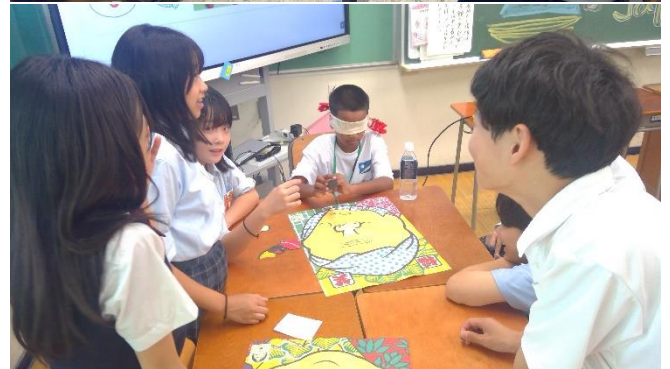
認知症サポート養成講座

6月21日(金)に、1年生が認知症について学びました。社会福祉法人渋谷区社会福祉事業団の看護師の方から、認知症についての正しい理解と、無理なくできることについてやさしく教えていただきました。日ごろから、周りの人の長所に目を向け、優しく接することが大切であることを学びました。



ミクロネシア国際交流会

Micronesian Friendship Day として、6月25日にパラオ共和国、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国の児童生徒84人を迎えました。体育館で効果を披露した後、各教室にて、日本の伝統的な遊びを紹介するなど、日本文化の交流を行いました。閉会式では、ミクロネシア側から、歌と踊りを披露していただきました。現地の衣装に身を包み、迫力のある踊りを見せていただきました。



スケアード・ストレイト

6月28日(金)に、1年生と2年生がスケアード・ストレイト(自転車交通安全教室)を行いました。体育館で、渋谷警察交通安全課の方々から、自転車のルールやマナーについて学び、その後スタントマンが実際にあった交通事故を再現してくださいました。この学習をもとに、事故にあわないように、事故を起こさないように、交通安全を守って、自転車を利用してください。



部活動の表彰

<陸上部>

○東京都中学校地域別陸上競技大会

1・2日目(5月18日・19日)

男子走高跳 3年 加藤泰輔 1m63

女子1500m 2年 伊藤めいな 5分02秒54

女子100mH 2年 松井杏莉 16秒42

4×100m 51秒91

2年 松井杏莉 児玉羽生

水上花蓮 福田梨紗

女子走高跳 2年 福田梨紗 1m50

女子砲丸投 2年 米田優瑞希 8m25



○東京都中学校地域別陸上競技大会

3・4日目(6月15・16日)

女子800m 2年 伊藤めいな 2分28秒49



<バスケットボール部>

渋谷区中学校バスケットボール選手権大会

男子 第3位

大会優秀選手(ベスト5) 3年 今川 慶



<バドミントン部>

渋谷区中学校バドミントン選手権大会

男子団体戦優勝

個人戦

ダブルス 吉田・國府田ペア準優勝

内田・山口ペア第3位

シングルス(男子) 塚田 海生 優勝

笹嶋 共則 第3位

(女子) 新井 杏菜 準優勝

【ブロック大会進出】

男子団体、

塚田、笹嶋、吉田・國府田ペア、

内田・山口ペア、新井

